技術士だより

―㈳日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 夏季号<第12号>(平成4年6月15日発行)

◇巻頭言

短く握って鋭く振り抜こう

新城 精一 (宮崎・建設、センター副会長)

世はまさにゴルフブームである。ゴルフクラブの素材も、より大きな飛距離を求めて、大きく変わってきている。長尺ドライバーも依然人気が高い。

ゴルフはどうしてグリップエンドいっぱい握るのだろう。野球では、特に甲子園戦法は「短く握って、ライト前をねらえ」がセオリーなのに。

ゴルフのスウィング理論では、スウィングアークが大きいほどボールは遠くへ飛ぶことになっている。長尺が幅をきかす論拠もそこにある。

しかし、人間は機械ではない、クラブが長ければスウィングは鋭さに欠けるし、ミート率もおちる。短く握ったほうが鋭く振り抜けるし、ボールを真っ芯に捕らえることができるから飛距離も出る、という理論との違いを実感しないのであろうか。

さて、技術士会でも相変わらず長尺が幅をきかしている、スウィング理論を信じて疑わないのである。「職業法」や「登録即入会」という黄金の長尺ドライバーをである。

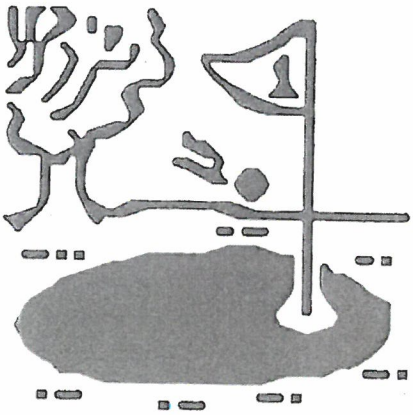
確かに「職業法」や「登録即入会」は魅力的である。実現すれば、医師や弁護士とも肩が並べられるし、会員も四千名から一挙に二万五千名である。技術士バンザイである。

しかし、今まで、入れ代わり立ち代わり、その黄金のクラブを振り廻した結果はどうであったか、虚しく空を切っただけの繰り返しではなかったか。

「職業法」や「登録即入会」は憲法で定めた職業選択の自由を侵す恐れがあるから無理、という一言でチョンであった。

そろそろ、クラブを一握り短く握りませんか。

「建設コンサルタントの登録制度」というのがある。「職業法」に近いかたちで運用されている。手始めにこの分野だけ「職業法」にしてもらうとか、あるいは他の分野の技術士を建設コンサルタントの技術士の地位まで引き上げるかはひとまず置くとして、手近な所に解決の糸口があるということに気付いて欲しい。



また、建設コンサルタントの一級建築士での登録問題、技術士補の資格の位置付けの問題にしても、解決出来ない問題ではないのです。

発注者に、技術士と一級建築士で登録している所を物件毎に使い分けて発注してもらうとか、技術士補を技術士とともに、業者の技術力評価の対象にしてもらうとかで、ある程度解決できるということを、いつまでも長尺に未練を持ち、振り廻している方々に知ってもらいたいものである。

私の提言　支部部会の活性化策

久保田　信一（福岡・建設及び農業）

日本技術士会で初の試みと言われる支部単位の部会が、九州支部に誕生してから1年以上を経過した。全技術部門18を6つの部会で構成されたこの組織は、発足時部会員数と所属技術部門が次のとおりになっていた。

第1：34名、機械、船舶、電気・電子他
第2：98名、建設、応用理学
第3：10名、化学、金属
第4：19名、水道、衛生工学
第5：24名、農業、林業、水産他
第6：12名、経営工学他

平成2年10月に第2部会が発会して平成3年3月の第1部会で全て出揃うまでに6ヶ月を要したような「生みの苦しみ」を経た支部部会であるが、現在でも「活動の苦しみ」を味わっている段階にあるだろう。このことは、次の2点が原因であろうかと考えられる。

① 部会員の絶対数が少ないこと。

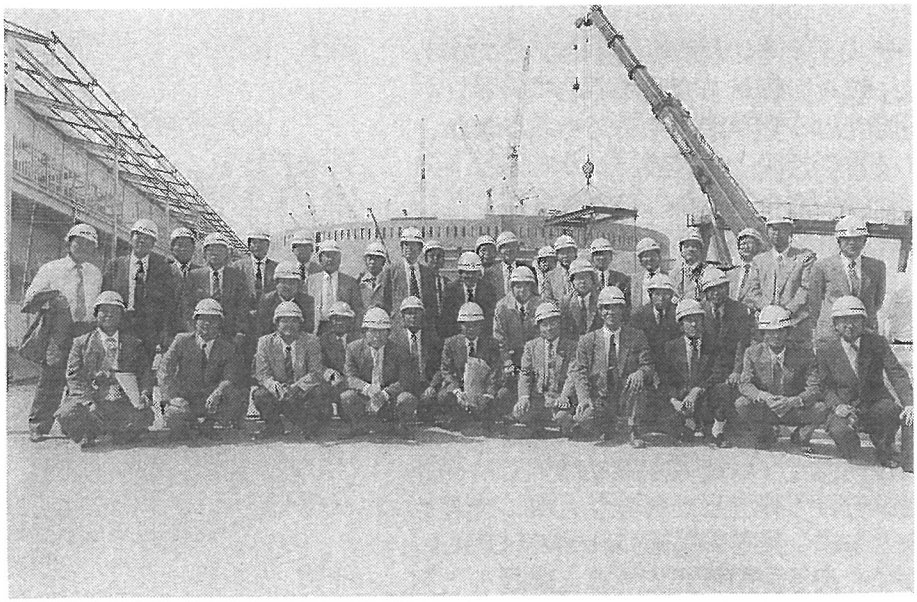
② 催し事の内容が魅力に欠けること。

所属部会員の親睦と技術研修を主な目的とする支部部会が活性化していくための方策について、これまでの第2部会活動状況をもとに幹事の立場で探求して試みたい。

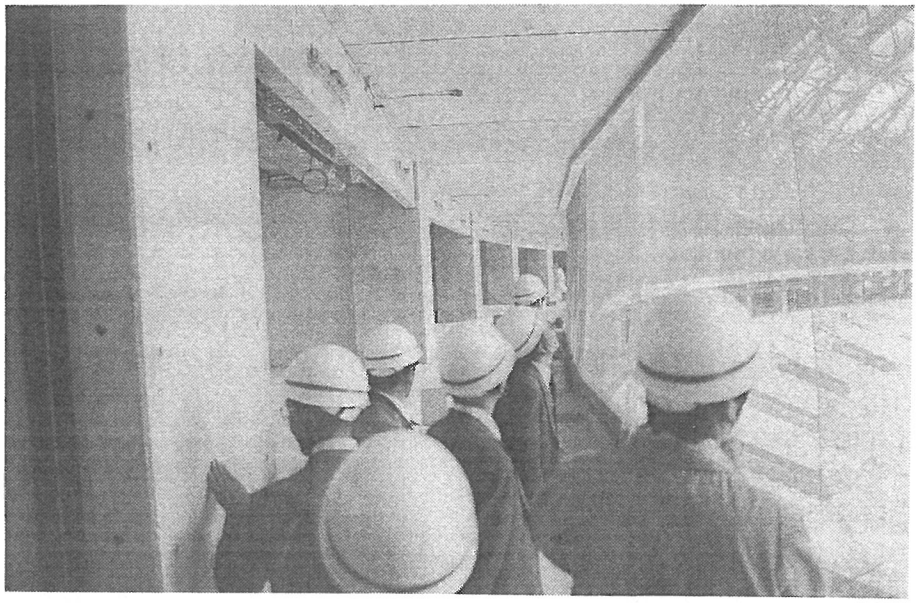
最初の具体的な動きは、部会運営資料を得るための部会員アンケートであり、回答率が54%の高率に達して多くの催し事等要望・意見が出され、部会員の関心が高いことを示した。そして平成3年2月を第1回とする技術研修の4度にわたる見学会と1度の講演会とでは20名前後の参加者に過ぎず、寂しい状況が続いた。多種にわたって懇親宴会も交えるような、アンケート結果に沿う内容だった筈が、どうして人気不足なんだろう。この答えは簡単に見出せた。次のような第5回見学会の盛況が教えて呉れた“研修魅力”である。

<次ページにつづく>

写真(1)
記念撮影



写真(2)
開閉屋根
骨組み



<前ページより－私の提言－　つづき>
日時：平成４年４月20日(月) 午後
対象：福岡ドーム球場建設工事現場
内容：我が国初の開閉式ドーム球場の新設

視点①　コンピュータ制御による
大規模屋根の開閉

視点②　自然採光と人工照明の併用
による光環境の制御

視点③　大空間建築における
音響の制御と空調の制御

諸般の事情から５月予定だったのを直前に急遽繰りあげたため、往復葉書での案内に日数不足で電送連絡を余儀なくされたものの、参加申込者数55名に達することができた。新年度早々の月曜日に直前の連絡という悪条件下でかような高い人気を示したのは、研修テーマの内容が部会員要請に適していたからであろう。前日の電話による出席確認で参加取消しを表明された14名と当日の無届欠席者２名との結果から、写真(1)のように総勢39名となったが、施工社見学規定の定員30名を大幅に超えて了解を求める必要が生じた次第である。開閉式の大規模な屋根の骨組み工事が、写真(2)の如く着手後間もない時期に見学された参加者達に、骨組み完了時点で再度見学したいとの要望の声を数多く聞かされ、どの面々へも感激の表情を読み取れるような大盛会であった。加えて部会員の関心内容がどこにあるかを、教えて呉れるような見学会でもあった。

支部部会を活性化するためには、部会員の要請内容に適応する行事類の計画実践が不可欠である。そしてアンケート結果の中身に包含されていよう前記例の如き魅力ある催し事を、的確に把握していく必要性が大きい。かような観点から部会員の皆様に提言させて貰えれば、次の諸事項についてご意見やご要望類を、本誌への投稿や直接・間接の連絡等いずれかの手段にてお聞かせ頂きたい。

① 見学・講演等研修テーマの内容
② 催し事の実施時期と種類
③ その他の部会運営法に関する事柄

部会を「活動の苦しみ」から「活動の楽しみ」へ成長させ、未加入技術士の方が入会したくなるような技術士会でありたい。会員の皆様のご支援とご活躍を祈念致します。

<私の提言　おわり>

日本技術士会近況

☆　平成４年度第１回理事会

５月21日、平成４年度第１回理事会が東京技術士会会議室で開催された。議事は次のとおり。

〇審議事項
１．平成３年度事業報告、決算報告(案)について
２．平成４年度の技術士等報酬に関する参考資料(案)について
３．平成４年度名誉会員について
４．平成４年度会長表彰者の選定について
５．報酬委員会委員の交代について
６．業務委員会委員の退任について
７．渉外委員会委員の追加委嘱について
８．中小企業対策調査委員会委員の追加委嘱と退任について
９．テクノマート対策委員会委員の追加委嘱について
10．「製造物責任」調査研究委員会委員の追加委嘱について

〇報告事項
１．臨時総会（平成４．３．１６）の開催結果について
２．平成４年度技術士第２次試験受験申し込み状況
３．第４回技術士業務研修会について
４．プロジェクトチーム（バイオテクノロジーワークショップ）の解散について
５．常設委員会報告
６．会員・準会員・賛助会員の入退会状況

〇その他
１．文書発送業務事務費の軽減のための協力依頼

☆　平成４年度技術士会会長表彰
－九州支部関係分－

福岡地区	建設	末永　實雄
大分地区	建設	野中　久光
北九州地区	機械	田島　　積

以上の３氏が６月23日の総会で表彰されることが決定しました。　<本部近況おわり>

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

☆平成３年度収支決算監査
日時：平成４年４月10日(金)15:00～17:00
場所：博多第一ホテル
出席者：
監事　山谷、完戸、川江、平野
支部・センター　原井、水上、青山、矢野、重富、古賀
議事：平成３年度支部・センターの収支決算および事業報告について会計監査

☆第２回支部・センター合同役員会
日時：平成４年４月25日(土)13:00～16:00
場所：福岡商工会議所　Ｂ１
司会：重富総務委員長
議事録：古賀事務局長
議事：
(1)　支部長・会長挨拶
(2)　出席状況
九州支部　定員29,出席11,委任状18
（３分の１以上）
九州地方技術士センター
定員32,出席14,委任状16
（２分の１以上）
よって役員会成立

(3)　議題審議
①平成３年度会務及び事業報告について
②平成３年度収支決算報告、監査報告について
③平成４年度事業計画(案)について
④平成４年度収支予算(案)について
⑤九州地方技術士センター定款改正(案)について
⑥その他総会に提出する議案について

<次ページにつづく>

＜支部・センター行事・会合報告つづき＞

(4) 報告及び行事予定等について

①常設委員会、地区、部会　行事予定表を６月10日まで提出

②ローマクラブ福岡会議イン九州への参加（５月12～14日）

③大韓火薬技術学会の研修団来日（６月21～27日）

④機械部会・中四国支部・九州支部合同研修会（６月26～27日）

⑤第５回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー

日時：平成4年11月13日(金) 13:00～20:00

場所：北九州市小倉北区大門1-1-17

ひびき荘 ☎(093)581-5673

以上

☆平成４年度第27回定時総会

日時：平成４年５月23日(土)13:00～19:00

場所：福岡商工会議所　604号

司会：重富総務委員長

議事録：古賀事務局長

議事：

(1) 支部長・会長挨拶

(2) 出席状況

九州支部　定員220,出席48,委任状106

（３分の１以上総会成立）

九州地方技術士センター

定員547,出席80,委任状292

（２分の１以上総会成立）

(3) 議題審議

①平成３年度会務及び事業報告について

②平成３年度収支決算報告、監査報告について

③平成４年度事業計画(案)について

④平成４年度収支予算(案)について

⑤九州地方技術士センター定款改正(案)について

⑥その他

○卓話

「自分という商品の磨き方、売り込み方」

講師：㈱ビアレックス社長　波賀 正一

○懇親会

以上

◎センター会費改正について

定款改正により、平成４年度から支部会員のセンター会費六千円を四千円に改正。

◎センター会費については、後日事務局より請求いたしますので、ご納入の程、よろしくお願いします。

＜支部・センター　行事報告　おわり＞

支部・センター委員会・部会だより

◇総務委員会(重富委員長)

☆　平成４年４月10日(金)　支部・センターの会計監査を実施、監査委員全員出席。

監査結果問題点なしとの講評を受け、監査委員からのご意見で、次年度繰越金についてはある程度の目安を設定し、より多くの繰越金を残すより、有効に活用する方策を検討するようにしたらどうかとの提案があった。

☆　平成４年４月25日(土)、６月15日発行予定の”技術士だより”の編集打合せを行った。

また、平成４年度から”技術士だより”の編集のためのプロジェクトチームの編成について協議した。

区分 / 地区	九州支部	九州地方技術士センター	
	会　員	正会員	準会員
福　岡	115 (2)	235 (2)	33
北九州	30 (1)	53 (1)	5
佐　賀	6	14	8
長　崎	14	25	7
熊　本	19	21 (1)	17
大　分	19	21	8
宮　崎	11	24	5
鹿児島	14	37	12
中四国	－	6 (1)	19
計	228 (3)	436 (5)	114

(注)　平成４年４月末現在。九州支部準会員は含まず。(　)は２部門以上の取得者数。

＜次ページにつづく＞

＜委員会・部会だより　つづき＞

◇㊎・試験委員会(政野委員長)

☆平成４年度技術士第二次試験受験申込者数
（平成４年５月１日現在）

（受験状況）		（福岡）	（全国）
受験申込者数	前年	1,422 名	14,852 名
	本年	1,301 名	17,517 名
内　建設	前年	947 名	9,109 名
	本年	873 名	11,161 名
建設以外	前年	475 名	5,743 名
	本年	428 名	6,356 名

・平成４年度より広島市に試験場開設
受験申込者数　建設　　594名、
建設以外 251名、計845名

◇センター・受験対策委員会
(町田委員長)

☆平成４年度技術士第二次試験講習会

○第１回 平成４年４月18日(土) 9:00～17:00
福岡商工会議所 604,605,606号室
受講者　80人
講　師　35人

○第２回
(1) 平成４年６月６日(土) 9:00～17:00
福岡商工会議所 505,605号室
前期添削結果をもとに個別指導
(2) 平成４年６月７日(日) 9:00～17:00
福岡商工会議所 Ｂ１（建設以外）
サンライフホテル ２（建設）
模擬試験、試験場での筆記要領指導

＜委員会・部会だより　おわり＞

❀ 声の広場　地区活性化だより －10－ 熊本地区

－２４時間開港型「九州ハブ空港」の建設を－

熊本地区代表幹事、副支部長、建設部門　青山次則

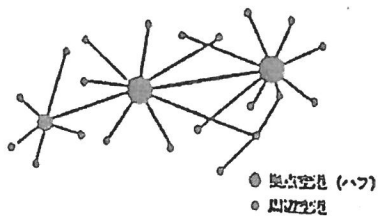
今九州では、「九州国際空港」の建設構想をはじめ、各県地方空港の空港国際化など、空港を中心に地域を活性化しようとする動きが活発化してきている。

このような空港の整備や航空ネットワークの充実は、「アジア及び環太平洋諸国の国際ゲートウエイ」を目指す九州にとっては、欠かすことのできない要件となるものであるが、一方では、九州がこれからの２１世紀へ向けて、一体的に均衡ある発展を遂げてゆくために必要な基本的課題となるものである。

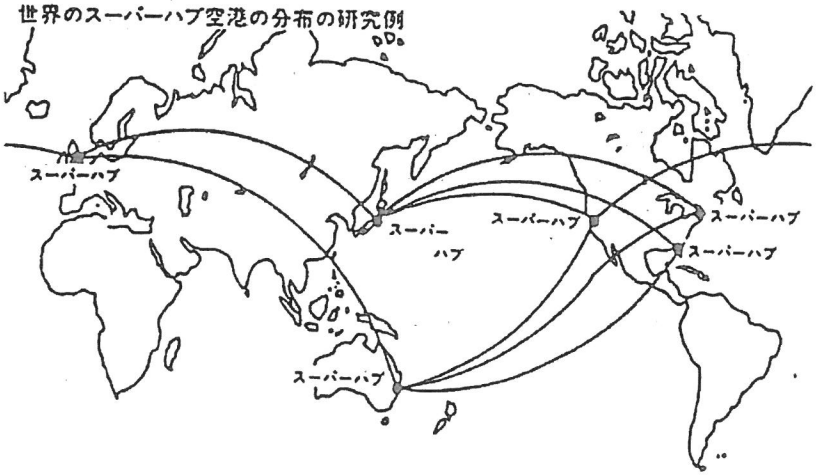
アメリカを中心とする航空先進国では右図のように拠点となる大型（ハブ）と、周辺に配置された地方空港を結ぶ(スポーク)、ハブ＆スポーク型航空ネットワークを形成し、鉄道や高速道路といった地上交通ネットワークと連携して、これらを中心に地域を大きく活性化させている。

このようなハブ＆スポーク型航空ネットワークの中で、国際間の拠点となる空港をスーパーハブ空港、　＜つづく＞

ハブ＆スポーク型航空ネットワークのイメージ図



世界のスーパーハブ空港の分布の研究例



＜地区活性化だより－熊本　つづき＞
つまり国際空港と呼び、わが国では、現在運行中が３ヶ所（新東京、東京、大阪）、建設中が１ヶ所（関西）、胎動中が２ヶ所（中部新、首都圏第３）となっている。

九州では、1963年８月に「九州中央空港」建設構想が提言（当時、熊本大学・堀一夫教授）されて30年になるが、1988年４月にＣ＆Ｃ２１研究会が、1989年５月に福岡経済同友会が「九州国際空港」建設を提言した。そして1989年11月に九州地方知事会と九経連の合同による九州国際空港検討委員会の設置を決め活動を開始し、1990年５月には、九州での国際空港建設を盛り込んだ九州開発促進計画が閣議決定された。

㈳日本技術士会熊本技術センターでは交通対策に関する研究の一環としてこの問題と取り組み、構想を1989年４月、研究成果を1989年９月、1990年10月の２回にわたって発表したが、いづれも研究的内容にとどまっていた。そこで1992年３月に以上のような航空ネットワーク形成といった視点から24時間開港型「九州ハブ空港」建設構想を提案している。この建設する位置については、九州国際空港の役割は九州圏域のハイモビリティ化、つまり、ハブ＆スポーク型航空ネットワークのハブであるわけであるから、九州各地の空港の中心であることが最も経済的である。したがって熊本・長崎・福岡のほぼ中心となる有明海は経済的位置としては妥当な地点であると考える。なお技術的問題の検討（地形・地質・海象・気象等）については熊本技術センターが発行する特集号を参考として頂きたい。これからこの国際空港の建設構想の話題は、九州は一つという見地からかなり活発な論議が交わされることと思うが、九州支部においても取り組んで戴きたい大きなプロジェクトではないかと考える。〈地区活性化だよりおわり〉

特集　◊ローマ・クラブ福岡会議イン九州について

真鍋和義（福岡・水道）

Global Environment and Local Action

１．はじめに
環境ブームと言える程、紙面に環境が氾濫している感があるこの頃ですが、どの程度本気なのか疑わしいものも随分あるように感じます。さて、「環境と開発に関する国連会議」（UNCED ＝地球サミット）を控えて、５月12～14日の３日間に亘りローマ・クラブ福岡会議イン九州が、「Global Environment and Local Action（地球環境と地域行動）」をメインテーマとして福岡市のホテル日航福岡にて開催されました。この会議にオブザーバーとして参加しましたので、出席への経緯等を含めて報告いたします。

２．ローマ・クラブとその活動について
フィアット社やオリベッティ社の重役で、実業家としても知られるオウレリオ・ペッチェイ氏を中心に、「地球の有限性」という共通の問題意識を持ったヨーロッパの知識人を中心に十数人が1968年、ローマで初会合を開いたのに因んで、「ローマ・クラブ」と名づけられました。

ローマ・クラブは世界各国の学者、政治家、実業家等、各方面の人々が個人の資格で参加するインフォーマルな組織で、パリに本部を置き、東および南の諸国を含む40数ヵ国にまたがる正会員は、規約により100名以内に限定され、名誉会員を含めると総数約150名となっています。日本からも大来佐武郎元外務大臣を始め現在７人が参加し、ローマ・クラブ日本委員会を構成し、大来氏が議長を務めています。

ローマ・クラブが1972年に出した最初のリポートが世界的に広く反響を呼んだ「成長の限界」です。この報告書は当時ＭＩＴ（マサチューセッツ工科大学）のデニス・メドウズ助教授を中心とした若手研究グループによる試算で、地球上の資源の有限性について強く警鐘を鳴らしたものでした。（なお、デニス・メドウズ氏は「成長の限界」の続編とも言える「成長の限界を越えて」を著し、今回ローマ・クラブメンバーとして来福しました。）ローマ・クラブはこのリポートを含め今までに18の報告書を発表しています。

＜次ページにつづく＞

<特集レポート・ローマ・クラブ　つづき>

ローマ・クラブの会議は原則として年１回の総会を開催し、現在まで世界各地で19回開催され、東京でも２回開催されています。また、総会とは別に「地域の問題をグローバルな地球的規模の問題と結びつける」という視点から地方都市で開催し、地元関係者およびローマ・クラブメンバーによる地方会議があります。第１回の地方会議は1989年米国コロラド州デンバーで開かれ、今回の福岡市での会議は第２回の地方会議となるわけです。

３．福岡会議の開催について

コロラド会議においてローマ・クラブ名誉議長のアレクサンダー・キング博士から、日本のどこかの地方都市でこのような会議を持つことは出来ないか、との打診が大来氏にあり、これを受けて平成２年に福岡市が中心となって、ローマ・クラブ日本委員会を通じて地方会議の福岡市への誘致を要請し、同年その開催が決定し、実行委員会（九州大学、㈳九州山口経済連合会、福岡商工会議所、㈶福岡国際交流協会、㈶福岡コンベンションビューロー、福岡市、ローマ・クラブ日本委員会の７団体で構成）において準備が進められてきたものです。

４．プログラム、テーマ、出席者等

ローマ・クラブメンバーやアジア・日本の招待出席者20数名により、次のプログラム、テーマで講演、パネルディスカッション等が行われ、最終日に福岡会議宣言が採択されました。その他オブザーバーとして約 300名が参加し、私もその１人として傍聴したわけです。

■プログラム

メインテーマ：Global Environment and Local Action（地球環境と地域行動）

５／12	午前	（開会式） [基調講演]地球環境と地域行動
（火）	午後	[ｾｯｼｮﾝ 1]　講演及び討議 地球的諸問題への対応
５／13	午前	[ｾｯｼｮﾝ 2]　ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ アジアにおける持続可能な開発
（水）	午後	[ｾｯｼｮﾝ 3]リード発言、自由討議 環境にソフトな経済システムと ライフスタイル
５／14	午前	[ｾｯｼｮﾝ 4]　ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 地球に優しい社会の創造
（木）	午後	[総括]「ローマ・クラブ福岡会議宣言」の討議　（閉会式）

５．技術士会からの参加について

”技術士だより”11号で紹介されたＹＣＥ福岡の発足に当り、環境に関して何か出来ないものかと意見が出され、ちょうどローマ・クラブの会議が福岡で開催されるから、これに出席できないかという声が上がりました。そこで実行委員会事務局に打診してみると、会議は前述の招待出席者20数名により行われ、その他の参加者はオブザーバーとして約300名のみということでした。300名ですから誰でもという訳にはいかず、自治体関係、協賛企業、学会関係、報道関係等、事務局で対象団体を選別して割り当てるということでした。そこで交渉の結果、最終的に技術士会として３人の出席枠が取れました。そして交代で出席して良いが、できれば１人は３日間通して出席してもらいたいとの意向により、支部役員会で人選の結果、出席者を次のように決定しました。

第１日　原井東男、棚町修一、真鍋和義
（支部長）（YCE福岡）（YCE福岡）

第２日　青山次則、矢野友一郎、真鍋和義
（副支部長）（YCE福岡）（YCE福岡）

第３日　水上信照、笠木直行、真鍋和義
（副支部長）（幹　事）（YCE福岡）

６．会議内容について

会議内容は新聞等である程度報道されましたが、私なりの感想を次に述べます。

討議は日英の同時通訳で聞くわけですが、やや聞きづらく、かなり注意を集中して聞かないと何を言っているのか分からなくなります。特に抽象的な話も多く、つい眠気を催すこともありました。また、どのセッションでも色々な面からの発言があるのですが、時間の制約もあって　<次ページにつづく>

<特集レポートつづき>　討議の焦点が絞れず尻切れトンボとなり、散漫な印象を受けました。ただセッション2以後はオブザーバーにも発言の機会が与えられ、特にセッション3では、司会の磯村尚徳氏が、福岡市で現在問題になっている博多湾の人工島建設の問題を取り上げ、多少なりともより具体性のある論議となりましたが、これも時間切れといった感じでした。

オブザーバーからの発言の中では、在日14年というフィリピンのジャーナリストの次のような発言が印象的でした。

「日本人はエビをよく食べるが、頭と尾は捨ててしまい非常にぜいたくだ。（エビ養殖のためにマングローブ林が消えていっているというのに。）また、一万円もするすしを平気で食べるなど、日本人の食生活は犯罪的ですらある」

その他討議の中での主要な意見を次に列挙してみます。

- 現況は既に限界に来ている。
- 人類の意識、価値観を大変革しなければならない。
- 教育が大変重要な問題となる。
- 先進国はもう成長を求めるべきではないが途上国については成長を否定するものではない。
- 先進国は途上国の環境問題に関して大いに協力しなければならない。
- 環境保全に関する技術は更に開発されねばならない。
- エネルギー消費、CO_2、オゾン層の破壊、人口増加、これらが地球環境にとって最重要な問題である。
- しかし地域毎に見ると更に様々な問題がある。

他にも多くの提言等がされましたが、こう書いてくると、いわば当り前のお話でもあったように思います。

7．福岡会議宣言

最終日に福岡会議宣言を採択して閉幕しましたが、この宣言は次のように3部で構成されています。

第1部の主題は「次世代からのアピール」子孫からの呼びかけとして、現代人の大量生産、大量消費の生き方に転換を求め、そのための覚悟、決意、行動を促した。

第2部はブラジルで開かれた地球サミットへの提言。市場経済至上主義を批判、人工抑制の必要性を訴えた。その上でローマ・クラブが1989年から提起している国連環境保障理事会の設置、エネルギーの保全や代替に関する世界計画の創設を要望した。

第3部では環境の研究や生活様式の変革に行政や企業の指導性を要求し、地域行動のあり方を説いた。特に福岡市には、環境問題に対する地域行動のモデルとなり、アジア諸国との協力を進めることを期待した。

8．終わりに

今回の会議では特に目新しいといった論議ではなく、いわば当り前ではあるが、いろんな角度からの提言、意見等であったように思います。しかし、改めて環境問題の重要性を見直すよい機会となったのではないでしょうか。我々も各自の技術分野でいかに環境との調和をはかるか心を砕いていくべきだと思いましたがいかがでしょうか。　（おわり）

技術動向

「RCCM」資格制度の実施について

副支部長・建設・福岡・水上　信照

建設省は技術士の活用について昭和39年、「建設コンサルタント登録規定」を設定し登録要件として、技術士を必須条件とし、また昭和53年規定を改正し、発注者側に建設コンサルタント登録企業を積極的に活用することとしている。また、平成3年度の重点項目として「建設業務管理者」略称、「RCCM」(Registered Engineering Manager)資格制度の創設を行うこととした。概要下記の通り。

<次ページにつづく>

<技術動向　つづき>

1．資格制度創設の背景と目的

建設コンサルタント業務の執行について、発注者においては、

① 業務成果の技術水準の確保

② 業務成果の十分なチェック

などのニーズがあり、

一方、建設コンサルタントにおいては、

① 発注件数に見合う業務管理者として技術士がいない。

② 企業が選任する管理技術者について資格基準がないため、発注者と意見のくい違いがおこることがある。

③ チェック責任者の資格が必要とされる。

などの課題があり、発注者、建設コンサルタント双方から、業務に対応する責任者の客観的評価、育成が望まれている。

このような背景から、技術士の指導の下に業務を直接管理する、またはチェックの責任者となる「業務管理技術者」（以下「ＲＣＣＭ」という）の資格制度を創設し、建設コンサルタント業務の円滑かつ的確な実施に資するとともに、優秀な技術者が積極的に活用されることによって、建設コンサルタントの技術力向上がはかられることを期するものである。

2．「ＲＣＣＭ」の役割と技術力

「ＲＣＣＭ」の役割は、技術士の指導・助言をうけて「設計業務共通仕様書」（建設省において規定している「管理技術者」として業務の遂行上の一切の事項を処理し、またはチェックの責任者としての職責を果たすものである。

管理技術者に要求される技術力は、設計業務の特質を理解し円滑・適正に業務を進めるための設計業務一般共通の技術と当該専門技術分野の理解とされる。

3．資格制度とその活用

(1)「ＲＣＣＭ」の認定と技術力の維持

資格の認定は、①設計等業務一般共通の技術力と、②専門分野別の実務経歴を筆記試験により確認し、③業務実施実績及び他の関連資格の取得等の書面等による評価と合わせて経験技術部門別（建設コンサルタント登録部門別と同じ）に認定することとする。

また、技術の発展・変化に対応した知識・技術力の維持のため、定期的に更新を行う必要がある。

(2)「ＲＣＣＭ」の資格、称号及び登録

当面は民間資格である。また、建設コンサルタント業務管理技士(Registered Engineering Manager)（仮称）の称号を付与するとともに経験技術部門別（建設コンサルタントの登録部門別）に登録することとする。

(3)実施主体

試験の実施・認定・登録の公正を確保するため、㈳建設コンサルタント協会が資格制度管理委員会（仮称、以下管理委員会）を設置し、この委員会が全てを実施する。

(4)実施時期（平成３年度）［平成４年度］

受験申込受付期間

平成３年８月20日(火)～同９月13日(金)

［平成４年７月20日～同８月15日］

受付場所　㈳建設コンサルタント協会

ＲＣＣＭ資格制度事務局

〒102 東京都千代田区九段南2-2-4

TEL　03-3221-8855

試験の日時　平成３年12月15日(日)

［平成４年11月15日(予定)］

試験地　東京都　青山学院大学

大阪市　大阪工業大学

福岡市

(5)受験資格

①学校教育法による大学卒業者にあっては、建設コンサルタント等業務について13年以上の実務経験を有する者。

②学校教育法による短期大学もしくは高等専門学校卒業者にあっては、建設コンサルタント等業務について15年以上の実務経験を有する者。

③学校教育法による高等学校卒業者にあっては、建設コンサルタント等業務について17年以上の実務経験を有する者。

④上記各項に該当する学歴と同等以上であると認められる学力を有し、かつ各項の実務経験を有する者。

(6)「ＲＣＣＭ」資格の活用

登録された「ＲＣＣＭ」は将来建設コン

<次ページにつづく>

<技術動向　つづき>

サルタント業務の管理技術者の資格要件として活用されることとなる。

(7)合格者について

平成４年２月28日、協会本部及び支部において合格者の受験番号が掲示された。7,873名の受験者に対し、合格者が4,164名となり、合格率52.9%であった。なお、部門別、地域分布、年齢分布等は下表の通りである。［平成５年２月15日発表の予定］

(8)登録

登録受付は、㈳建設コンサルタント協会本部試験事務局にて、平成４年３月より行われている。（ＲＣＣＭ）登録簿に登録し「登録証」が交付されている。

(9)参考

建設コンサルタント協会

－平成２年10月１日現在－

会員数　294社

営業収入金　4,743億円（平静元年度）

役職員数　41,071人

内訳　技術職　32,929人

（うち技術士 3,719人）

事務職　8,142人

※　本年度試験の判明分を［　］で示した。

◎平成３年度ＲＣＣＭ受験状況　（１）部門別

部門名	受験者数	合格者数	合格率
1.河川・砂防及び海岸	人 778	人 470	% 60.4
2.港湾及び空港	198	94	68.1
3.発電土木	87	51	58.6
4.道　路	1,702	827	48.8
5.鉄　道	190	96	50.5
6.上水道及び工業用水道	183	84	45.9
7.下水道	611	297	48.9
8.農業土木	322	189	58.7
9.森林土木	82	46	56.1
10.造　園	115人	56人	48.7%
11.都市計画及び地方計画	772	377	48.8
12.地　質	258	158	61.2
13.土質及基礎	916	538	58.7
14.鋼構造及びコンクリート	983	560	57.0
15.トンネル	178	108	60.9
16.施工計画及び施工設備	549	207	37.7
17.建設機械	8	5	82.5
合　計	7.873	4,164	52.9

(2)地域分布

地域名	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
受験者数（人）	434	539	2,675	290	754	1,349	650	258	915	7.873
合格者数（人）	267	289	1,433	163	368	677	370	186	481	4.164
合格率（%）	61.5	49.9	53.6	53.6	48.9	50.2	56.9	52.7	52.9	52.9

<技術動向　つづき>

(3)年齢分布

年　齢	37歳以下	38～40歳	41～43歳	44～46歳	47～49歳	50歳以上	合　計
受験者数(人)	1,250	1,982	1,980	1,006	674	979	7,873
合格者数(人)	617	1,054	1,066	584	375	468	4,164
合 格 率(%)	49.4	53.2	53.8	57.9	55.6	47.8	52.9

<技術動向　おわり>

随想 ◊雲仙普賢岳災害に思う

長崎・応用理学　原口　強

今、長崎といへば雲仙普賢岳である。日本中の、いや世界の注目を集めている。現在活動中であり、今なお多くの方々が不自由な避難生活を送られている。多くの貴い人命も失われた。関係者の心中推察するに、あまりあるものがある。

視点を変えて普賢岳の麓、島原市を概観してみる。そこには「うまい」と定評のある島原の水、湧水がある。「名水百選」にも選ばれた。温泉もある。目を海に転ずると、沖合いには九十九島がある。すばらしい多島海の景観である。同時に、天然の防波堤である。これらは1793年「島原大変、肥後迷惑」時にできあがった。この時の山体崩壊、「流れ山」が海まで達し、大津波を発生させ、肥後迷惑となった。約15,000人の人命が奪われ、今なお日本火山災害史上最悪の惨事となっている。津波の発生原因となった「流れ山」は海岸線を約800m前進させ、その後に広大な平地が残った。大規模海面埋立地の出現である。そこが市街地となっている。もう一度、山を見る。海から一気に1,359mのところに、普賢岳山頂（今は溶岩ドームのてっぺんの方が高い）があった。四季折々のすばらしい変化を楽しませてくれる。その背後、西側には雲仙温泉街がある。かって世界的に知られた避暑地で、そこには日本で初めてのパブリックゴルフコースが設けられ、よく整備され、ほぼ開設当時のコースがある。地元の人は「普賢さん」と親しみを込めて呼ぶ。まさに、普賢さんの恩恵で成り立っていた所なのである。同時に地質的な時間軸で活動し、人間との関係に於て、災害ももたらしてきた。

大自然を前に人間はきわめて小さい。山の沈静化を待たねば復興は困難だろう。必ず沈静化する。出来れば我々が復興に貢献できる時間レベルであって欲しい。技術士は、科学技術の多くの分野で実践を担当する。技術士として復興のシナリオをどう描くか。技術士の活躍の舞台は整っている！？

<終わり>

随想 ◊ 年度末は仕事が忙しくなる

川崎　迪一（福岡・建設・第２部会長）

つい最近のことだが、タクシーに乗って街を走っているとき、運転手が「年末になると道路工事があちこちで増えて車の流れが悪くなり困ります。毎年のことでどうにもならないのでしょうね」と全く迷惑そうに話しかけられた。云われてみればそれまであまり気にもならなかったが、改めて周辺を見回して見ると確かに　<次ページにつづく>

＜　随想　　つづき　＞

年末の12月以降、あちこちで工事が増えて、人や車の通りが悪くなっている。

かって建設事業に係わった身びいきからか、建設工事ではそれ程迷惑を与えるとは感じていなかったので、いささか意表を突かれて返事がすぐに言葉にならなかった。公共事業はすべて単年度予算制度のためにどうしても年度末に工事が集中する宿命であることを説明しようかと思ったが、説明がややこしくなるし、容易に理解して貰えそうにないので説明は止めて単に「いや、本当ですね、どうにもならないのでしょうね」と相槌を打つだけにとどめた。

そういえば新聞の社会面でも、年末年始の大売出しの時期に、福岡第一の繁華街の天神の目抜き通りで歩道の改修工事が行なわれ、歩道幅は半分以下になって歩行者で大混雑している。なにも人出の多い年末年始の時期に歩道工事をやらなくてもという記事があった。福岡市役所の担当者からは「綺麗なカラー舗装になるので、今しばらくのご辛抱、ご協力をお願いします」とのコメントがのっていた。すぐにこれは単年度予算制度のなせる結果で、やむを得ない処置だろうと推察できた。担当者がそのことを云わなかったのか、或るいは新聞が記事にしなかったのか判らないが単年度予算制度には触れずじまいであった。そのせいにしたのでは一種の不可抗力と同じになって、あたりまえのことになり記事として面白くないのかも知れない。

単年度予算制度のために迷惑を受けているのに私どもが関係している建設業およびその関連業である建設コンサルタント業、地質調査業、測量業等がある。

昨年、㈳建設コンサルタント協会九州支部で調査された資料によれば、契約期間内に平均して業務を実施したと仮定して計算をした結果、上半期の４月～９月での業務量は年間の25％しかなく、下半期の10月～３月の業務量は年間の75％に達し、年平均の５割増で、なんと上半期の３倍の仕事をしていることが判った。従来から上半期が閑散期で下半期が繁忙期であることは判ってはいたが数字で示された厳しさに今更のように愕然とさせられたのである。他の建設関連業においても、ほとんど官需に依存しているので同様な傾向にあることはもちろんである。

以上のように単年度予算制度は、かなりの迷惑を国民に与えているが、これが改善は大蔵省サイドの『予算制度の原則』からほとんど手が付けられないようである。最近になって補正予算による『国債』（国庫債務負担）の『ゼロ国債』（３月に当該年度予算ゼロで翌年度にまたがる契約を締結する）によって急場を凌いでいるが、金額的にも僅かで抜本的な改善には至っていない。またこれが対象は工事のみであって関連業のコンサルタント等の調査委託業務が対象になっていないのは全く不都合というほかない。

予算制度の原則のもとでは抜本的な業務遂行の平準化は難しいが『早期発注』『繰り越し制度の運用』と『ゼロ国債の拡充』（金額と対象業種）さらに県・市にも『県市債』を拡大するなどの施策を強力に推進して頂かねばならないのである。

それでもなお年度初めの閑散は避けられそうにもないので、一年のサイクルの中に盆や正月の休みがあるように、この間に技術力の確保と向上のための施策を行うとか、リフレッシュのための長期休暇をとるとかして、一年を通じて『ゆとり』のある業務遂行体制を敷いてなお経営的にも成り立つようにありたいものである。　　＜随想　おわり＞

技術報告２

環境問題 ― 技術相談より

斎藤　清美
（福岡・衛生工学／
九州環境技術研究所）

平成の時代になって「日本の環境」という定義は大義化され、産業公害防止型から、生活環境、快適環境の創造へと生長し、地球環境規模にまで発展しています。

九州は日本の経済基盤の約10分の１を支えている反面、生活基盤整備率は低いレベルで推移しており、水、廃棄物に関する未解決問題は深刻となり山積するようになって来ました。

因みに九州は、台風の来襲や火山活動等の被災が頻発したり、点在する等の歴史的、地理的背景もあり、水俣病発生地でもあった事から、災害や　　＜次ページに続く＞

＜技術報告　つづき＞

環境問題については、ことのほか関心が高く、地域の反応には過敏なものがあります。

とりわけ、環境問題に対する専門的な技術者数は官民共に少なく、各市町村レベルや中小企業の現場においては問題を内包している所が少なくありません。

私の技術相談業務は、従前より、厚生省関係の環境技術者教育機関の講師や、福岡県、佐賀県、熊本県等の各機関において環境関連の専門家登録をさせていただいている所からのもので、斡旋によるものもあります。相談は、各行政機関の窓口や建設インストラクター、環境関連処理企業等からの依頼により、水、公害、廃棄物等の処理計画や、河川、ゴルフ場環境安全評価等の技術相談と幅広い問題解決業務に応じています。特に最近では、ゴルフ場の使用農薬を減らすために、佐賀県内で最初の減農薬使用マニュアルを作成しており、地域住民の方々の安心出来る水質保全措置を講じている例等もありますので、他のゴルフ場へ先鞭をつけるものと考えられます。扨て、このような技術相談の展開に際して、自分の不得意とする所は九州支部、センター会員の支援をいつもお願いしていますがその方が、依頼者より好評を得られます。又殊に、設計審査や、安全性の評価等の業務及び事業者が問題を起こし、解決を依頼する業務等については秘密保持の大原則が絶対条件となりますので、これを厳守する事が、私の技術士としての繁栄の源になっています。

私の分野は、これらの事が功を奏して、現在では１人で対応できない件数となり、昨年度はの個人投資を行い、念願の調査分析センターを併設する事になりました。そして秘密保持に係る機敏な問題解決体制を強化し、九州地方の予防的な環境保全対策に寄与したいと心がけています。

＜技術報告　おわり＞

会員ニュース

☆学会・団体等よりの受賞（敬称略）

◎　田島　積（機械・北九州）
- 受賞先　㈶省エネルギーセンター会長賞
- 対象業績
  プレイバックバーンユニットの開発
  （難然泥液・有機酸性泥液等の
  焼却処理システム）
- 連名者　㈱生越製作所

◎　是石　俊文（建設・福岡）
- 受賞先　エネルギー・資源学会
  第５回技術賞
- 対象業績
  石炭灰による人工軽量骨材の製造技術
  （廃棄物の再資源化技術）
- 連名者
  (1)　石井　国義（九州電力㈱）
  (2)　佐藤　茂樹（㈱神戸製鋼所）
  (3)　照喜名　二郎（㈱神戸製鋼所）
- 受賞日時　平成４年４月15日
- 授賞式会場　大阪国際交流センター

（会員受賞のお知らせ　おわり）

☆㈳日本技術士会（九州支部）入退会

(区分)	(地　区)	(氏　　名)	(技術部門)
入会	福　岡	楢原　昭雄	建　　設
〃	〃	長崎　孝博	衛生工学
〃	〃	境　邦誓	建　　設
〃	〃	長　孝良	衛生工学
〃	〃	船越　龍徳	水　　道
〃	〃	服部　弘政	電気・電子
〃	〃	柴田　陽一	建　　設
〃	〃	小野　満司	〃
〃	〃	池田　昭弥	〃
〃	熊　本	河内山　進	農　　業
退会	熊　本	畦元　四郎	応用理学

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。（200字詰め原稿用紙２～３枚程度を目安に願います。支部事務局宛）

＜会員ニュース　つづき＞

☆九州地方技術士センター入・退会

(区分)	(地　区)	(氏　　名)	(技術部門)
入会	福　岡	楢原　昭雄	建　　設
〃	〃	伊東　通陽	〃
〃	〃	坂井　和典	〃
〃	〃	岩吉　敬輔	〃
〃	〃	津城　　正	〃
〃	〃	小石原健治	〃
〃	〃	鬼塚　　諫	〃
〃	〃	岩本　文明	水　　道
〃	〃	鳥越　敏文	〃
〃	佐　賀	渡邊　繁文	建　　設
〃	福　岡	明石　弘二	〃
〃	〃	吉田　紘一	農　　業
〃	〃	平　　信雄	水　　道
〃	〃	長崎　孝博	衛生工学
〃	〃	長　　孝良	〃
〃	〃	村上　　正	水　　道
〃	鹿児島	永重　雅守	建　　設
〃	北九州	山崎　康続	経営工学
〃	福　岡	高槻　和宏	建　　設
〃	〃	吉村　岳丸	林　　業
〃	〃	船越　龍徳	水　　道
〃	〃	西川　征二	建　　設
〃	〃	池田　昭弥	〃
〃	〃	今田　尊徳	〃
〃	〃	服部　弘政	電気･電子
〃	宮　崎	野田　勝美	建　　設
〃	福　岡	柴田　美寛	〃
〃	北九州	中村　常蔵	応用理学
〃	長　崎	高田　和年	水　　道
〃	熊　本	松尾　芳博	建　　設
〃	〃	河内山　進	農　　業
〃	鹿児島	奥山　康宏	建　　設
〃	福　岡	本田　政彦	機　　械
〃	〃	寺西　高宏	〃
〃	〃	前野　英昭	化　　学
〃	〃	中村　　茂	建　　設
〃	〃	松井日出海	〃

☆九州地方技術士センター入・退会

(区分)	(地　区)	(氏　　名)	(技術部門)
入会	福　岡	大堂　仲二	建　　設
〃	北九州	西村　顕治	〃
〃	〃	安部　義美	〃
〃	佐　賀	森　　靖英	衛生工学
〃	〃	前山富士夫	林　　業
〃	長　崎	柳井　富弘	建　　設
〃	熊　本	坂本　忠一	〃
〃	〃	長田　光義	〃
〃	〃	福地　伸一	〃
〃	〃	後藤　洋一	水　　道
〃	大　分	市宮　久之	建　　設
〃	〃	阿部　洋祐	〃
〃	鹿児島	本田　信孝	〃
〃	〃	松山　義高	〃
退会	長　崎	宮村　重範	建　　設
〃	〃	筒井　光男	〃
〃	鹿児島	井内　祥人	林　　業
〃	大　分	坂元　　清	農　　業
〃	中四国	武波　隆司	建　　設
〃	佐　賀	中山　暢之	〃

－受付順、敬称略－

☆会員勤務先（住所）および連絡先変更

1．竹元　幹生　（応用理学）
連絡先 〒892 鹿児島市大明丘2-12-11
TEL (0992)44-4962

2．弓削田　耕一　（水　道）
連絡先 〒814 福岡市早良区百道浜
1-5-3-602　TEL (092)845-1371

3．緒方　　栄　（機　械）
連絡先 〒818 筑紫野市大字原696-25

4．杉元　健一　（建　設）
連絡先 〒890 鹿児島市西田２－１３－４
上杉第６マンション西田301号
TEL (0992)54-2364

＜次ページに続く＞

＜会員ニュース・勤務先など変更・つづき＞

5．小島　義博　（衛生工学）
勤務先 〒862 熊本市神水１－２４－６
建神ビル　６Ｆ
㈱アンビエンテ総合コンサルタント

6．脇　百太郎　（建　設）
社名変更　㈱環ヴイトーム
TEL (0975)34-1436

☆訂正とお詫び！
前号の会員ニュース（つづき）を10ページに掲載すべきところ、上記１～６の会員勤務先（住所）および連絡先変更分を編集ミスで落としました。今回ここに掲載いたしました。また、９ページ下段と10ページ上部の記事重複がありましたことも、合わせてお詫びいたします。

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆４月号
◦技術士全国大会報告
◦提言　発展の時期　／梶山　正之
◦研修のページ
経済成長 ― エネルギー ― 環境
／神山　弘章
アメリカ製造業の反省　／高橋　駒雄

☆５月号
◦私の技術士業務
私の技術士人生　／永井　芳治
技術士として30年　／伊東　慶禧
◦研修のページ
防衛分野の電子・情報処理技術
／小滝　国雄
◦技術士業務の国際化　／斎藤　健

☆５月臨時増刊号 ― 研究・業績特集
◦各分野における技術士活動の最近の成果

☆６月号
◦提言　2000年へのコンサルティング業務
／木下　郁也
◦「私の技術士業務」を読んで／武本　博臣
◦基礎生物学研究における酵母の利用
／川口　博子
◦最近のＶＥ事情　／小泉　泰通

7．古賀　本行　（応用理学）
社名変更　㈱カミナガ
(旧)神長ボーリング工業㈱

8．久保　末吉　（建　設）
勤務先 〒847-12 佐賀県東松浦郡
北波多村徳須恵1417-1
岸本ボーリング有限会社
TEL (0955)64-2525

9．讃井　親士　（建　設）
勤務先 〒815 福岡市南区大楠1-33-44
㈱大楠調査設計事務所
TEL (092)522-7321

10．柴田　陽一　（建　設）
勤務先〒803北九州市小倉南区徳力1-17-7
西日本測量設計㈱福岡支店
TEL (093)961-2058

11．天野　昭和　（農　業）
勤務先 〒830 久留米市東合川3-1-21
㈱テクノ
TEL (0942)44-8700

12．頼政　尚　（農　業）
連絡先 〒811-23 福岡県粕屋郡粕屋町
内橋197-1 サンライフ H-201
TEL (092)938-5476

編集後記

多くの犠牲者を出した雲仙・普賢岳の大火砕流からはや１年。地球を人類のためにのみあるように振る舞うことへの警鐘か。しかし沈静化の一日も早からんことを祈るのみ。
”技術士だより”も今回で12号になった。しかし、相変わらずのミスまたミスに‥‥‥有能な若手の先生に登場をお願いしたいところ。大相撲を見習って活性化はいかが。(小)

発行：㈳日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810 福岡市中央区大名１丁目
１２－６１　新天ビル４０２
☎（０９２）７７１－９５３４
編集：九州支部・総務委員会